

# 想



菰野町長  
石原 正敬

## 笑中有道

東日本大震災、急激な円高、EU圏内における財政危機等々、国内外を問わず社会経済情勢は大変厳しい局面を迎えています。20数年前（東西冷戦時代あるいは金融資本主義を暴走させている「IT革命」以前）であれば、世界の経済状況が及ぼす市町村の財政運営への直接的な影響は極めて限定的でしたが、今やその影響は、社会保障費の増大とも相俟って、税収や雇用といった面でも市町村運営に大きな影を落とし始め、予断を許さない状況となっています。こういう時代にあって、私は、財政及び政策の予見可能性と持続可能性に着眼しなければならないと考えていますが、一方で、すべてとはいかないまでも、世界規模での経済活動と地域の経済活動（第一次産業を含む）をいかに切り離すかを真剣に考える時代に入ったと認識していますし、特に、食糧とエネルギーについては菰野町でも具体的なレベルでの積極的な取組をしていきたいと思っています。

さらに、このような厳しい状況が社会の閉塞感を肥大化させていますが、だからと言って、短絡的な対立的構図が問題を解決させるとは到底思えません。そういう意味からも、誰かを悪者に仕立て、あたかもそれがすべての元凶であるという妄想を抱かせるような否定的(negative)視点からの極端な議論ではなく、肯定的(positive)視点からの冷静な議論が必要であると、私は確信しています。

『古事記』によれば、天照大御神に天岩戸を開かせたのは八百万の神の笑い声でした。厳しい状況になればなるほど、人々は笑いが存在する何か楽しそうな場に引き寄せられるのも事実です。また、笑いはある種の残酷さを伴いますが、共通認識や情報共有がなされていなければ生じませんから、冷静な議論をする上で不可欠な多面的視点の提供や批評的精神の涵養につながることも考えられます。私はこのような観点から笑いの中に道を見出すことが時代に求められていると感じていますが、皆さんはいかがお思いでしょうか？

最後に一句「行く道を 示すが如く 初笑」。